

「パラナイバ養護学校通学用バス整備計画」 供与式



総領事と APAE 会長が ODA シールを
序幕



APAE の生徒達と同バスで車列
パレードする総領事



西林総領事とダンスを披露した
APAE の生徒達

2007年9月4日、パラナイバ障害者を支える親と友の会（APAE）の施設において、草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式が行われ、西林万寿夫総領事、マノエル・オヴィジオ・パラナイバ市長、アナ・マリア・フェヘイラ・ピニエイロ同団体会長、他関係者、生徒、父兄等約200名が出席しました。

式典前にバスの供与を記念して、車列パレードが1時間程度行われました。供与されたバスに乗車した障害を持つ生徒たちは旗を振りながら「JAPAO, JAPAO（日本、日本）」と歓喜の声をあげ、日本政府に対して感謝の気持ちを表しました。オヴィジオ市長は、APAEを通じたパラナイバ市に対する日本政府の多大な支援を感謝するとともに、障害者を支え努力してきた APAE 校の関係者に敬意を表しました。

エリザベッテ・コレテ APAE 第12地区顧問は「ブラジルの NGO に対して協力を実施している日本国総領事館に敬意を表す。今回供与されたバスは生徒に喜びと希望を与えた。バスがあることで生徒はより落ち着いて通学できる環境が整うこととなった。」旨挨拶がありました。

エジソン・ピニエイロ APAE 会長代理は、「日本人は1908年6月18日、笠戸丸でサントス港に渡泊し、それ以来日本人はブラジルに対して、様々な貢献をしてきた。日本とブラジルの距離は遠いが地球の裏側から当団体に対し9万ドルを贈与してくれた行為は意味深いものであり、私は感謝の気持ちで感激している。」旨謝意を述べました。

西林総領事は「現在120名の身体・知的障害者が養護学校に通学しておられると伺っている。しかし、貴団体のバスは故障が多く、生徒が通学できないこともある

上、そのバスには車椅子昇降機やシートベルトもなく、安全面の問題が生じているという報告を受けている。この度我が国の無償資金協力により、貴団体に通学用バスを整備することで、生徒が安全に通学できるようになることを期待する。」と挨拶しました。

式典後、バスの ODA シールの序幕や生徒のダンスが披露されました。

案件名：「パラナイバ養護学校通学用バス整備計画」
被供与団体：パラナイバ 障害者を支える親と友の会（APAE）
プロジェクト実施地：南マト・グロッソ州パラナイバ市
契約署名日：2007年3月12日

供与限度額：183,333 レアル

案件概要：パラナイバ APAE は 1980 年に設立され、120 名（計画書提出現在）の身体・知的障害者が通学しています。その生徒は 92 年型の所有バスで送迎されているが、故障が多く、生徒が通学できないこともありました。そのバスには車椅子昇降機やシートベルトもなく、安全面の問題が生じていました。この度の我が国の無償資金協力により、送迎用バスを購入することで、生徒が安全に通学出来るようになります。

供与品目：車椅子昇降機付の大型バス



シートベルト付きの新バス



車椅子昇降機で楽に乗車

